

コンマカイガラムシの 有害動植物リスク分析

平成 24 年 2 月

横浜植物防疫所

第1章 ステージ1：コンマカイガラムシに関する有害動植物リスク分析の開始

1-1 開始：（開始するに至った問題の本質、目的）

コンマカイガラムシは現在検疫有害動植物として取り扱われているが、検疫有害動植物については、平成16年5月21日に公表された「植物検疫に関する研究会報告書」で「検疫有害動植物については、輸入植物の用途や輸送形態も考慮し、可能な限りリスクの定量的な評価を含めて、適時適切なPRA（有害動植物リスク分析）を実施し、それぞれのリスクに応じた措置となるよう検証し、対応していくことが適当。」とされた。

このため、コンマカイガラムシの有害動植物リスク分析を見直すこととした。

1-2 有害動植物リスク分析地域の特定

日本全域と特定する。

1-3 対象となる経路及び潜在的検疫有害動植物

1-3-1 経路

コンマカイガラムシが発生する地域から輸入される寄主植物を経路と特定する。

1-3-2 潜在的検疫有害動植物

コンマカイガラムシ（学名：*Pinnaspis strachani* (Cooley)）を潜在的検疫有害動植物と特定する。

1-4 情報

生物学的な情報は、別紙のとおり。

1-5 開始の結論

検疫有害動植物の取り扱いについては、「植物検疫に関する研究会報告書」において、付着する植物の用途や輸送形態を考慮しつつ、随時適切な有害動植物リスク分析を実施する旨の指摘があったことから、有害動植物リスク分析を実施する必要性が生じた。

本種を潜在的検疫有害動植物と特定し、また、本種の発生国の寄主植物を経路と特定し、我が国全域を対象として、植物検疫措置に関する国際基準 No. 11「検疫有害動植物のための有害動植物リスク分析」に基づき、有害動植物リスク分析を開始する。

第2章 ステージ2：有害動植物リスク評価

2-1 植物検疫上の取り扱いに影響するコンマカイガラムシの特性等

2-1-1 系統

植物検疫上考慮すべき系統に関する情報は見つからなかった。

2-1-2 未発生有害動植物のベクター

ベクターとなることに関する情報は見つからなかった。

2-1-3 日本での分布状況及び公的防除の有無

コンマカイガラムシは、関東以南の日本各地に分布している。

本種は、公的防除の対象ではない。

2-1の結論

コンマカイガラムシは、関東以南の日本各地に分布し、国内に存在する個体群と国外に存在する個体群間に寄主植物に対する被害に差があるとの情報はない。また、本種は公的防除の対象ではなく、その対象とする計画もないため、検疫有害動植物に該当せず、非検疫有害動植物と位置づけられる。よって、有害動植物リスク分析は中止する。

別紙

和名	名：コンマカイガラムシ ^{3)、5)}
学名	名： <i>Pinnaspis strachani</i> (Cooley) ^{1)、3)、5)}
英名	名：lesser snow scale ^{1)、3)}
分類	類：カメムシ目 (Hemiptera) ^{1)、3)、5)} マルカイガラムシ科 (Diaspididae) ^{1)、3)、5)}

分布：(日本) 関東以南の日本各地⁵⁾
(世界) 世界の温帯～熱帯地域に分布⁵⁾

寄主植物：カンキツ類^{3)、5)}

形態・生態：雌成虫の介殻は長さ2～2.8mm、茶褐～暗褐色、細長く、後方に向かってやや広がり、背面は弱く隆起してカキ殻状、先端に1～2齢幼虫の脱皮殻を付着する。雄の2齢介殻は綿状、小型で細長く、雪白色でもろい。雌成虫は黄～橙褐色、紡錘形。少なくとも年2回の発生で、主として成虫で越冬するが、発生は不揃いで2齢幼虫で越冬するものも見られる。孵化幼虫は介殻から脱出後、短時間のうちに寄主に定着し、雌は終生移動することなく2齢幼虫を経て成虫となり、雄はさらに蛹を経て有翅の成虫となる。⁵⁾

被害：幼虫と雌成虫が主として葉に寄生するが、枝、幹や果実に寄生することもある。寄生部に黄斑を生じ、多発すると美観が損なわれ、生育が阻害される。⁵⁾

ベクター・

系統：植物検疫上考慮すべき系統等が存在するとの記述はなく、日本未発生の有害動植物のベクターとなる旨の記述もない。^{1)、2)}

防除法：カンキツ類等においてカイガラムシ類に対する登録農薬がある。⁴⁾

文献：1) CAB International (2011) Crop Protection Compendium. CABI.
(<http://www.cabi.org/cpc/>)
2) CAB International (2011) Plant Protection Database (1972-2011).
SilverPlatter International N. V. (<http://ovidsp.ovid.com/>)
3) 日本応用動物昆虫学会 編 (2006) 農林有害動物・昆虫名鑑増補改訂版. 日本応用動物昆虫学会、東京：387pp.
4) 独立行政法人 農林水産消費安全技術センター (2011)
農薬登録情報検索システム. (<http://www.acis.famnic.go.jp/>)
5) 梅谷献二・岡田利承 編 (2003) 日本農業害虫大事典. 全国農村教育協会、東京：1203pp.